

- 7・9日 産業文化祭
9日 藤井地区農道舗装入札
10日 民生委員協議会
ごみ処理場打合せ会
13日 行方地区農業共済組合広域
合併推進協議会
19日 若妻教室研修
25日 農業委員会総会
27日 法律相談
28日 議会協議会
30日 区長会議

昭和45年12月10日（毎月1回発行） 編集 玉造町役場 発行人 町長 坂本常蔵 印刷所 さんゆう社印刷 定価 10円 昭和38年1月23日第三種郵便物認可

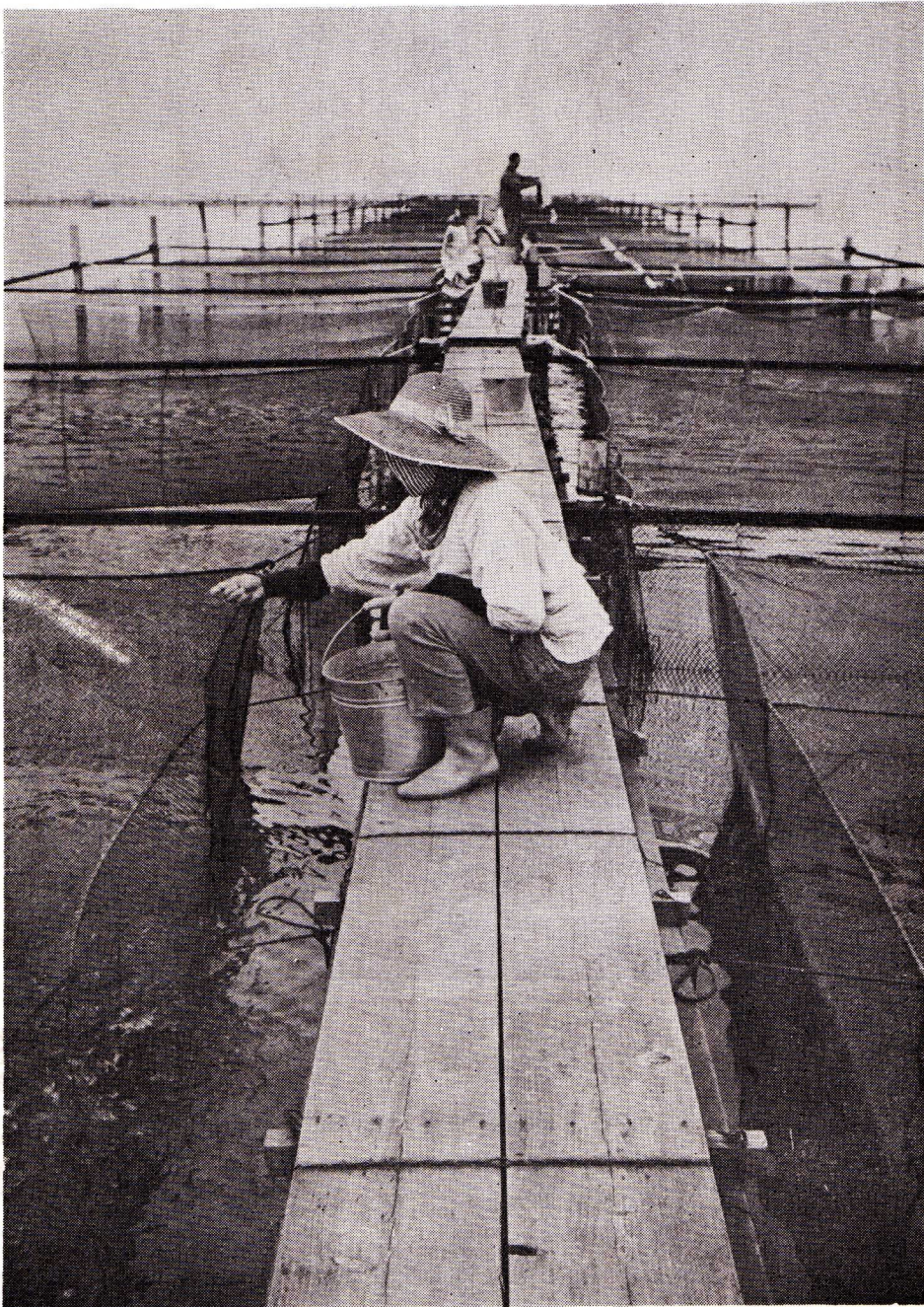
霞ヶ浦の漁種は70種をこえると言われています。しかし、湖の環境や漁法の変化は魚種交替を急速にすすめています。

今では、霞ヶ浦の漁業も、手賀を代表とする「網いけす」の小割式漁業をはじめ、他の湖岸では鯉の養殖、淡水しじみ放流など、人の手によって年々変えられていきそうです。

とる漁業から 育てる漁業へ

とる漁業から育てる漁業へと変わって久しい。資金、技術、気象条件など、その壁は厚くかわしいものがありますが、その中で、金魚や錦鯉など観賞魚の養殖にとり組む人が年々ふえ、新田、西蓮寺、八木蒔など約五十戸になっています。手賀、新田あたりでは、長い間耕しつづけた水田をやめて数年前から養殖漁業にとりくんでいます。プールのような養魚池づくり、さん素の取り入れ、えさづけ、霞ヶ浦での成育と忙しい日々が続きます。

これらの成育過程を経て市場へ出荷するまで、はりつめた努力がつづけられます。



霞ヶ浦の網いけす 水田をうめたてて作られた養魚池で育てられた鯉は大きくなると霞ヶ浦の網いけすへと移され成育してゆく。

金魚のふるさと

新田あたりでは、ここ数年のあいだに金魚のふるさとと呼ばれるほどになりました。この金魚は和金、朱分金、りゅう金、コメットなどと呼ばれるもので、部落中に広がる十四軒あまりの養魚池で育てられています。

また鯉は、大きくなると霞ヶ浦の網いけすに移され、育て上げられます。四月から六月ころ、親金魚のうんだ卵は一週間ぐらいでふ化しますが、これを人工飼料で二カ月間育てると三〜四センチになります。

これと一年ものといひ、夏まつりなどの露店で金魚すくいに出される金魚です。一年もので出荷しないものは、十二月から三月の間はえさを与えず水温が十五度になるとえさづけをします。

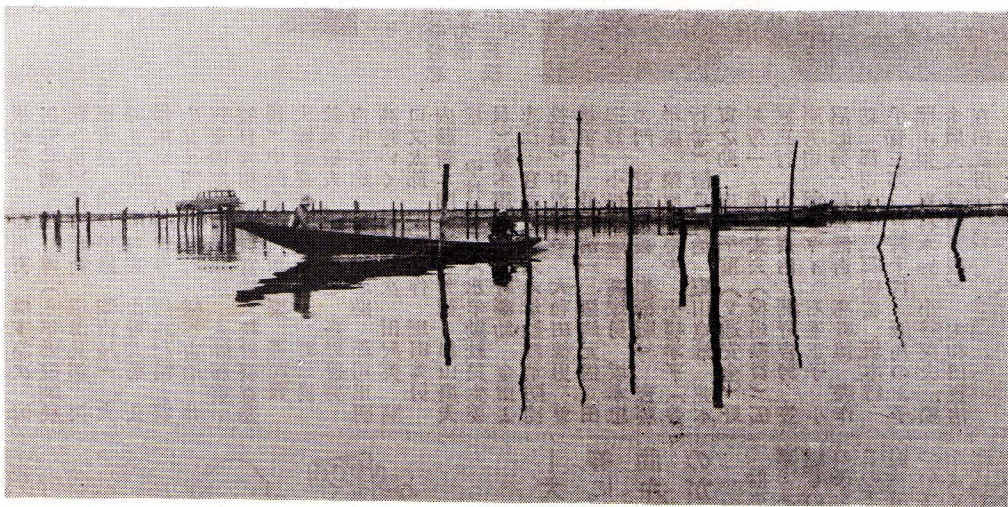
こうして翌年の六月〜八月にかけて出荷される二年ものは、観賞用や、つりほりなどで飼われます。

出荷先は、おもに東京方面で、本場の奈良県大和郡山南市のものより近距離なため、将米は本場をしのぐだろうといわれます。

このように「金魚と鯉の本場」と称されるほどになった養殖漁業。また、一方では、従来の漁法に疑問と不安を持って水から去ってゆく人々。

霞ヶ浦の水とともに生きて来た人、そしてこれから生きて行く人びと、がつくりあげる新しい霞ヶ浦。

次第に進む都市化が霞ヶ浦を汚すことなく、魚のふるさとと同様に、人びとのふるさととして清らかに残して行きたいものです。



か え り 舟 霞ヶ浦の漁法は変わつたが一日の仕事を終えて湖をはしる舟の姿は今も昔も変わらない。

○：町をあげてのお祭り「産業文化祭」が終わると、玉造町中も、人の流れが濃くなって来たような気がします。

役場の年度末は三月ですが、やはり十二月になるとあわただしさは庁舎内にもめだててくるようです。

ことしは私たちの郷土々たまつくりまち々がうまれてから十五周年を迎え、文化祭初日に合併十五周年記念を挙行政、そのもようを本紙に集録しました。

この紙面でことしも終わりになりました。また来年。